

ワオキツネザルの人工哺育と群れへの復帰

○松本茉麻, 松元由貴, 北山美晴, 前谷史恵

当園ではワオキツネザル 15 頭を池にある島状の施設で飼育している。2021 年 2 月 24 日に初産の個体が出産したが、育児放棄したため人工哺育とした。最終的には 242 日齢で群れへの復帰に成功したので報告する。人工乳はヒト用(明治ほほえみ®)を使用し、1 日齢から規定の 1.5 倍希釈で与え、63 日齢から離乳完了の 182 日齢までは規定濃度で与えた。41 日齢から離乳食を与え、92 日齢には自力採食を確認した。並行して 55 日齢から展示場内で群れとの見合いおよび同居訓練を開始し、当初は 1 回あたり 5 分間から始めた。同居完了となる 242 日齢まで他個体から攻撃されることはなかった。91 日齢からは担当者への依存を防ぐことを目的として、離れた場所から観察し同居を進めた。108 日齢からはワオキツネザル寝室内にて格子越しに他個体を認識できる状況とした。148 日齢からは、展示場内で担当者の介添えなしでの同居練習を開始した。池への転落の可能性を考慮して、担当者は獣舎内で待機し副担当者は来園者側から観察した。同居時間を徐々に延長し、242 日齢に同居完了するまでの訓練の総回数は 84 回であった。無事に成育したのは、3 日齢から予防的に整腸剤(ビオスリー®)を添加した上で人工乳の濃度を適宜調整したことで下痢等がなかったためと考える。群れへの復帰が実現したのは、早期から見合いおよび同居を開始したことで仔の成獣に対する恐怖心が生じなかったこと、相互の認識が十分に行えたことが要因と考える。今回の試みにより得られた知見は、ワオキツネザルだけでなく他種の人工哺育事例にも参考となることが期待できる。

○令和 3 年度(公社)日本動物園水族館協会九州・沖縄ブロック飼育技術者研究会

令和 4 年 2 月 17 日(木)

WEB 開催(熊本市動植物園開催)